

第59号

2017年5月15日発行

発行所

社会福祉法人日本キリスト教奉仕団
障がい者総合福祉施設アガペセンター
〒252-0002 座間市小松原2-10-14
TEL 046-254-7111 FAX 046-255-2915

ホームページアドレス
<http://www.agape-jcws.com/>

今、考えなければならないこと

アガペ 壱番館
館長

小田中 博志



この春、アガペ壱番館は一九九九年の開設から満十八年を数えました。新たな年度、新緑のシーズンを利用者の皆さんと共に迎えることができますのも、多くの方々からのご支援によるものと、心より感謝を申しあげます。

さて、九年間の異動による不在のうち、久しぶりにお目にかかる壱番館利用者の皆さんとの表情からは、様々な苦労も含め、積みかねられた年月の重みがうかがえ、またかつて共有させていただいた数多くの出来事が思い出されました。

今は既に六十歳台になられた方も、開設間もなくの頃はまだ四十代。付添で一緒にさせていただいた一泊旅行の温泉での一コマや、夜半不在がわかれ、当日非番の職員ともども探し回った末、朝方になつて無事見つかり、胸

をなでおろしたときのこと。ワーカー室のカウンター越しにご相談をお受けし、時間も忘れて話し込んでしまったこと。緊急搬送先の深夜の控え室で、ご本人のエピソードを伺い、時間と場所もわきまえず大笑いしたこと。その他にも実際にたくさんのが、まるでつい昨日のことのように彩りと温かみを伴つてよみがえつて来ます。

ただ一方で、いつも拝見できたあの方やこの方の笑顔が今はもうここにはないんだ。という言い様のない寂しさも胸にこみ上げます。

そんな風に思い出される数々のことを通じて、この壱番館での皆さんそれぞの生活の刻一刻がどれだけ大切なものであり、かけがえのないものであつたのかと、いうことが再認識され、また限りあるその時間を共有させていただいていることにあらためて身の引き締まる思いがします。

思いに浸る間もなく、昨年夏、県下入所施設で起こった事件は、日本中の人々を震撼させました。

事件の容疑者は、「生産しないものには価値がない」、「社会のために排除するのだ」と語ったと言われています。利用者の皆さんの大切な時間が、この言葉ひとつで突然断ち切られてしまったことへの憤りと、絶対に許せない。という思いの一方、国内外で起こっ

ている次のような出来事の中に不安感とともに類似性を見出している方も少なくないのではないかと思います。

原発事故から避難して来た小学生は、なぜいじめを受けなければならなかつたのか。在日外国人の方たちを攻撃するヘイトスピーチは、いつ静まり、相次ぐテロや難民問題、世界中に吹き荒れる排外主義の嵐はどうすれば止むのか。

この嵐のたどり着く先にある戦争は、今も圧倒的な暴力で命と生活を根こそぎ奪い去っています。それでもなお、命の芽生えた場所には必ず人の営み、生活が根付き、絶えることはありません。

それはアスファルトの隙間にひょっこりと顔を出したタンポポの花のごとく逞しく、そこにかつて命の営みがあったことを示すとともに、道の先へ進む人の後姿にエールを送ります。

私たちが考えなければならないのは、壱番館の皆さんの命と生活をこのような暴力から守るためにどうするかということ以上に、決してこんなことに屈することのない頑丈な根を地中深く張り巡らせ、どうすれば皆さんが「生きた」と実感できるような生活を創出せるのか。ということなのかもしれません。そんなことを肝に銘じ、新たな時に向け歩を進めて行ければと考えています。

アガペ地域交流フェアを開催しました!

アガペサポートセンター施設長

元田 熱

二月十八日（土）、「来て、見て、聞いてアガペの事！」というタイトルの基、アガペセンター初（発）となる地域交流フェアを開催いたしました。このフェアは地域の皆様がアガペに求めている事を知る（地域ニーズの掘り起こし）をテーマに、地域の皆様にアガペの事、福祉の事を知つていただくと共に、地域住民の一員として共に歩み、生きる事を目的に開催しました。



当日は、二十九名の座間市内在住勤の方

が、お越しくださいました。一部はミニ講座「地域で共に暮らす」を行い、障害の基礎知識と障害がある方は地域生活をする中で、どの様な場面で困っているのか、困っている時に、手伝える内容について講座を行いました。二部は福

祉体験とアガペの施設見学を行いました。福祉体験は車椅子、電動車椅子についての説明と実際に車椅子に乗つたり、介助を体験していただきました。「見た事はあるけど、乗ったり、押したりするのは初めて。」と興味津々



了後のアンケートには「定期的に開催してほしい。」「福祉体験を通じて勉強になった。」「障害当事者の方の話を聞きたい。」等々、感想と共に、次回への期待のコメントもありました。今回の企画について、参加された皆様の熱心に取り組んでいる姿や、楽しまれている様子を拝見させていただき、「開催して良かった」と実感しております。その一方で、地域の皆様に福祉やアガペの事を知つていただく機会の必要性と、このような催しを通して人と人とがつながる事により、共に歩み、生きる基礎となる事の重要性を感じました。今後も障害の有無にかかわらず、幸せな毎日が降り注ぐようになります。きつかけとなる取り組みを日々、行ってまいります。



法を知つていれば、簡単にバリアは回避できる事を知つていただきました。施設見学では建物や設備だけでなく、実際に障害がある方が、アガペという福祉サービス（資源）を活用し、活動している様子を見ていただきました。最後は、カレーキッチンSARAでのカレーの試食で閉会となりました。終了後は、アサヒビールの試飲会があり、多くの来場者が参加しました。また、来場者は、アガペの施設見学や、福祉体験などの様々な活動を通じて、地域社会との交流を深めることができました。

十六節～十八節

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあつて、神があなたがたに求めておられることである。」

テサロニケ人への第一の手紙五章

パウロがテサロニケの信徒に宛てた手紙で、キリスト者としてどのように生きるべきであるかを説いています。人は、順調な時は喜べますが、試練の時には喜べないものです。

しかし、神様はいつも喜ぶよう求めておられます。神様がいつも私達に目をとめていてくださり、私たちが試練にあっていることもご存知で、逃れの道を備えてくださいます。

必ず喜びに変えてくださる神様に、絶えず祈つてほしいという信仰から来る希望でもあり、その神の愛に気づく時に、私たちの生活が喜びと、感謝に変えられるのではないでしょうか。それを支えるのが、神様との対話でもある祈りなのです。

わたしの聖句

総務課 斎藤 智



新人紹介



診療所 看護師

菅原 順子



診療所 看護師

塚田 かおり



本館生活支援課
生活支援員

二宮 萌夏



南館生活支援課
生活支援員

川崎 常喜



本館生活支援課
生活支援員

今 弘幸

四月から常勤職員として働くこととなりました。わからぬことがあります。一生懸命頑張ります。よろしくお願ひします。

非常勤職員として働いていましたが、今年度より常勤として働かせていただきます。利用者さんの役に立てるようこれからも頑張ります。

四月から職員として勤務することになりました。利用者の皆さんのお気持ちに寄り添える職員になりたいです。よろしくお願いいたします。

この度、アガペセンターにお世話になることになりました。少しでも入居されている方と笑いと喜びを分かちあえるように、頑張ります。

先輩方に学んで利用者の皆さんが少しでも心地良い時間を過ごせるような支援ができればと思っています。よろしくお願いします。

す。

アガペの利用者さんに一言お願いします。

就職には日々の訓練が大事だし、実習も役立つので挑戦するといいと思いま

う。免許があるので、ドライブをしながら音楽を聴いたりして気分転換をしています。

休日はどのように過ごしていますか?

色々な仕事を任されるようになり、今は、リーダーとしても取り組めていることが嬉しいです。家族も仕事につけたことを喜んでくれています。会社の人とも仲良く仕事ができて楽しくしています。

現在のお仕事について教えてください。

私は、特例子会社ウェルシアオアシス株式会社で働いています。

仕事の内容は、系列のドラッグストアの各店舗にチームで巡回清掃に行き、お店の窓ガラス拭きや、空調機の清掃などを行っています。天気が良い時には草むしりなども行います。



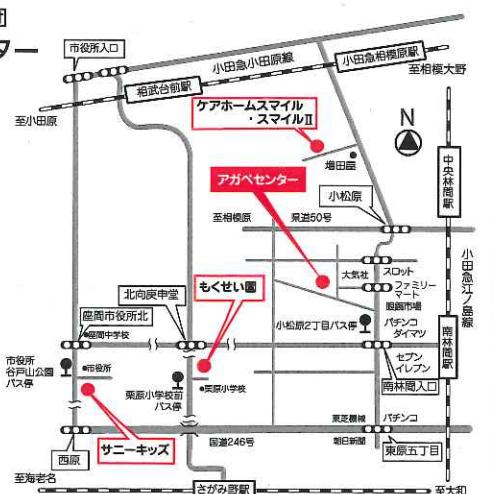
丸山泰弘さん

同窓生は今



社会福祉法人 日本キリスト教奉仕団
障がい者総合福祉施設 アガペセンター

- ・障がい福祉サービス事業所
アガペ第1作業所・第2作業所
- ・障がい者支援施設
アガペ苔番館
- ・障がい福祉サービス事業所
生活介護事業
相談支援事業（総合相談室）
アガペサポートセンター
- ・障がい福祉サービス事業所
座間市立もくせい園
(〒252-0014 座間市栗原中央 6-7-27)
- ・児童発達支援事業
座間市サニーキッズ
(〒252-0021 座間市緑ヶ丘 1-2-1
総合福祉センター（サニープレイス）内)
- ・障がい者グループホーム
ケアホームスマイル
(〒252-0001 座間市相模が丘 2-32-24)
スマイルⅡ
(〒252-0001 座間市相模が丘 2-32-2)



退任のお知らせ

一九九九年よりアガペ利用者さんの診療、健康管理に携わってこられました、アガペ診療所安部明郎先生が三月に退任されました。

この度、神奈川福祉事業協会様及び神奈川県遊技場協同組合様による平成二十八年度福祉車両助成を受け、日産キャラバンを配備しました。ここに助成のご報告を申しあげますとともに、両団体並びに、ご協力いただきました神奈川県共同募金会様に感謝の意を表します。



車両寄贈のお礼